

平成27年10月22日に総務生活委員会を開催し、所管する事務事業の調査を次のとおり行いました。

● 第2次総社市総合計画について ●

～内容～

平成28年度から平成37年度までの10年間の市の指針となる「第2次総社市総合計画」の策定について、調査するもの。

～質疑～

問：総合計画から各分野の計画への展開はどうするのか。

答：総合計画が一番の上位計画になるので、これに基づいて各部各課において、この基本理念に基づいて施策をしてもらう、計画を作ってもらおうということをお願いしている。庁内にしっかり浸透させていきたい。

問：岡山、倉敷に「質」で負けないとあるが、具体的なポイントはどうか。

答：岡山県内市町村において、総社市がどういう位置にあるのか、数値を集めている。最終的には、参考資料等として、総社市が岡山、倉敷に対してどういう位置にあるのか資料を付けていきたい。特に福祉の部分は、岡山、倉敷に質では絶対に負けないというところを目指していきたい。

問：「だれもが訪れたい総社」については、既存の施設をいかに活用するかということがテーマになってくる。しかし、この中に「きびじつるの里」が入っていない。特別天然記念物で年間3,000万円以上の予算を計上している丹頂鶴がなぜ入っていないのか。誰もが訪れたい総社に加えてもいいし、学びたい総社に加えてもいい。なぜ鶴を外しているのか。

答：きびじつるの里については、前回の議会で決議もされたところなので、基本目標のどこに該当するのか精査していきたい。

問：都市計画マスタープラン案と、目標人口が違う。都市計画マスタープランでは6万8,000人、総合計画では6万9,000人とあり、なぜ整合性がとれてないのか。

また、特殊出生率について、総社市は幾らになっているか。目標数値があるか。

答：6万9,000人というのを決めたのが、かなり直近であり、数字の積上げにかなり時間がかかった。すぐに情報の共有を図る。

合計特殊出生率は、3年前の数字で1.55というのが出ていた。しかし、分かりづらい点もあり、人口ビジョンを算出する際の目標には、合計特殊出生率アップについては入れていない。

問：表紙のサブタイトルの中で、「福祉文化を全国トップレベルに」とあるが、どうか。

答：審議会で、「総社には古くからの歴史文化という非常にいいものがある。福祉をやる上でもこういった文化的要素というものを挙げていく必要がある。そのためにやはり都市像の中に入れてほしい」と強い意見があった。市長とも相談して入れている。

問：消防団員の確保について、盛り込んだ方がいいと思うがどうか。

答：指摘のとおり入れていきたい。

問：商工・物流のサブタイトルで、起業を応援するとしている。総社発で何か企業を作るようなイメージだと思うが、具体的な何かを示した方がいいと思うがどうか。

答：起業について、具体的に市として何か直接的にできるかという点、そうではないと思っている。金融機関では、創業支援のサポートもしているので、その辺りを念頭に置いていたところである。その点をより明確化していきたい。

問：小・中学生のお母さんなどからの意見聴取はしているのか。

答：保護者、PTA等だと思うが、審議会委員にはPTAの代表者に入って議論してもらった。

**問：「吉備線をもっと便利に」の中の沿線周辺の土地整備及び用途変更、都市計画に関係があるが、県とどのように調整していくのか。都市計画については県の協議が必要だが、その辺りはどうか。
また、主体的な土地利用の「促進の小さな拠点の形成」とは何か。**

答：沿線の開発の関係で、県とどのように進めていくのかということだが、市街化については県南都市計画の中でがんじがらめになっている。これから地区計画といった形で県と協議をしていく。地区計画を作りながら県と協議して、それを県に認めてもらうというような手法を考えている。

また、小さな拠点の件については、これは国が進めているコンパクトシティー化のことだ。小さな拠点を幾つも集約して、それをネットワーク化するというような発想である。何かどこかを切り捨てるのではなくて、コンパクトにしてそれをネットワークでつなぐというのが趣旨だ。